

評価指標(教育)

I 区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目

II 区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
1 教育アセスメントの実施	II	モニタリングとレビューによる教育アセスメント※を毎年度行い、その結果に基づく改善を実施 ※大学教育の成果を学位プログラム共通の考え方や尺度に則って点検・評価すること	毎年度実施	実施時期（毎年度実施）を新たに設定
2 eポートフォリオの構築	II	新eポートフォリオ※を令和9（2027）年度を目途に導入 ※学修過程や学修成果（学修目標・課題達成のために収集した資料、レポート、成績など）を電子的に記録し、蓄積するシステム	未導入	実施時期（令和9年度を目途）を新たに設定
5（仮）数理・データサイエンス・AI教育プログラム	I	必修科目を除くデータサイエンス関連科目の履修登録者の第4期目標期間中の4年間（令和7（2025）～令和10（2028）年度）における合計が2,400人以上	新規取組のため実績無し	第4期からの新規取組であり、600人/年の履修を目指して設定
6（仮）次世代チャレンジプログラム	I	「（仮）学生チャレンジ研究推進費」制度を整備し、当該申請件数の第4期中期目標期間における合計が5件以上	新規取組のため実績無し	新規に2025年度からの開始を目指した取組であり、1～2件/年の申請を目指して設定
7 環境ESDプログラムの再整備	I	副専攻環境ESDプログラムの科目等を再整備し、毎年度の受講者が定員の90%以上	第3期平均99.2%/年	第3期の実績を踏まえ、高い水準である定員90%以上の受講者を目指して設定
8 博士課程等学生研究者の育成	I	「次世代研究者挑戦的研究プログラム」※を活用して支援する博士後期課程の学生数の第4期中期目標期間における合計が23人以上 ※選抜した博士後期課程学生に、生活費相当額、研究費の支給、キャリア開発・育成コンテンツ提供等の支援を行うJSTの助成制度	新規取組のため実績無し	第4期に新規に国から採択された同プログラムの支援予定人数を踏まえて設定

評価指標(教育)

I 区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目

II 区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
9 大学院の定員管理	I	各研究科の入学定員を毎年度適切な範囲で管理 (入学定員充足率 博士前期・修士課程0.5倍以上2.00倍未満、 博士後期課程 0.33倍以上2.00倍未 満)	第3期最終年度(R4) 法学研究科 0.67 社会システム研究科 博士前期 0.62 博士後期 0.83 国際環境工学研究科 博士前期 0.90 博士後期 2.00	国の認証を受けた評価機関（大学基準協会）が定める基準 (博士前期課程：0.5倍以上2.00倍未満 博士後期課程：0.33倍以上2.00倍未 満)を設定
10 留学等による国際化の推進	I	海外派遣学生数の第4期中期目標期間における平均が135人以上/年	第3期平均 (コロナ禍除く) 135人/年	留学は外部要因（経済社会情勢など）が影響することを踏まえ、第3期の平均実績以上を目指して設定
	I	交換・派遣留学の受入人数の第4期中期目標期間における平均が40人以上/年	第3期平均 (コロナ禍除く) 40人/年	
11 グローバルに活躍する人材の育成	I	K G E P (Challenge Course※) の登録者数の第4期中期目標期間における平均が26人/年以上 ※ Challenge Course：留学や海外プログラム参加に向けた心構えの形成段階からグローバル人材としての素養を段階的に高めることを目指すコース	第3期最終年度 (R4) 24人	第4期中にK G E Pの各プログラム内容をアップデートすることを踏まえ、第3期実績から更なる増加を目指して設定
	I	再編後のK G E P (副専攻Advanced Course※) の定員充足率の第4期中期目標期間における平均が80%/年以上 ※副専攻Advanced Course：高い英語運用能力を養い、海外体験を通じて国際的な視点と実践力を身に付けることを目指すコース	第3期平均 70%/年	

評価指標(教育)

I 区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目

II 区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
12 キャンパス内外での国際交流活動の実施	I	<全学> 本学及び地域の特性を生かした国際交流活動の実施件数が毎年度10件以上	第3期最終年度 (R4) 10件	第3期最終年度の実績以上を目指して設定
13 学生支援の充実	I	<全学> 退学率(除籍除く)の第4期中期目標期間における平均が1.5%/年以下	第3期 最大 1.52% 平均 1.24%	大学では様々な学生支援を行っているが、退学については、学生個人の事情による影響が大きいため、第3期の実績を超えないよう設定
	I	<国際環境工学部> 退学率(除籍除く)の第4期中期目標期間における平均が1.7%/年以下	第3期 最大 2.65% 平均 1.73%	
14 就職支援の充実	I	低学年向けのプレ・インターンシップガイダンスの開催件数が毎年度2回以上	新規取組のため 実績無し	第4期からの新規取り組みであり、毎年2回の開催を目指して設定
	I	インターンシップの参加者数の第4期中期目標期間における平均が800人/年以上	第3期平均 728人/年	就職支援充実の観点から、第3期の平均実績から更なる増加を目指して設定
15 入試制度の見直し	I	入学者選抜方法について、毎年度、データに基づいて検証し、必要に応じて改善を実施することにより、一般選抜入試の志願倍率が毎年度主要公立大学の平均志願倍率以上	第3期最終年度 本学 4.3 主要公立大 4.6	本学と同規模以上の公立大学と比較し、高い志願倍率の確保を目指して設定
17 高大接続の推進	I	志願者アンケートにおいて、大学入学共通テスト前に本学を受験先として決定する志願者数の第4期中期目標期間における平均が584人/年以上	第3期最終年度 (R4)567人/年	第3期の最終年度の実績から更なる増加を目指して設定

評価指標(研究)

I 区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目

II 区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
18 再生可能エネルギー技術等に関する研究の推進	I	海外の大学や企業等と共同で実施する再生可能エネルギーや水素の利活用等に関する研究・プロジェクト等の実施件数の第4期中期目標期間における平均が10件/年以上	第3期直近2年の実績 R3 11件/年 R4 16件/年	第3期直近2年間の実績と教員の研究テーマや海外大学・企業等の動向を踏まえて設定
19 カーボンニュートラルに関する研究の推進	I	大学が推進するカーボンニュートラルに関する研究・プロジェクト等の実施件数の第4期中期目標期間における平均が10件以上/年	第3期直近2年の実績 R3 11件/年 R4 8件/年	第3期直近2年間の実績と教員の研究テーマを踏まえて設定
20 共同利用・共同研究拠点としての取組の推進	I	共同利用・共同研究※件数の第4期中期目標期間における平均が20件以上/年 ※R3文科省「共同利用・共同研究拠点」に認定された環境技術研究所設置の先制医療工学センター、計測・分析センター	国の認定以後2年間の実績 R3 21件/年 R4 21件/年	国の認定以後2年間の実績と他大学を含む教員のニーズを踏まえて設定
22 社会実装に向けた研究の推進	I	理工系研究者と文系研究者による共同研究の実施件数の第4期中期目標期間における平均が3件/年以上	第3期直近2年の実績 R3 2件/年 R4 3件/年	第3期直近2年間の実績、委託元である国の機関等の動向を踏まえて設定
23 科学研究費の獲得等優れた研究への支援	I	若手教員（40歳未満）の科研費※獲得件数の第4期中期目標期間における平均が28件/年以上 ※人文・社会科学から自然科学までの全ての分野で、基礎～応用までの学術研究の発展を目的とした文部科学省の競争的研究資金	第3期の4年間（R1～R4）平均28件/年	第3期の平均実績と教員の年齢構成を踏まえて設定

評価指標(地域貢献)

I 区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目

II 区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
24 シンクタンク機能の充実	I	地域団体等からの受託研究・受託事業等の件数の第4期中期目標期間における平均が6件/年以上	第3期平均 6件/年	第3期の平均実績と地域団体等のニーズを踏まえて設定
	I	行政機関の委員等として就任した件数の第4期中期目標期間における平均が50件/年以上	第3期期間中 52~74件/年 平均 61件/年	第3期の実績と委員就任が外部要因であることを踏まえて設定
25 地域共生教育センターの取組	I	<全学> 地域共生教育センターの学生プロジェクトに参加する学生数(延べ人数)の第4期中期目標期間における平均が492人/年以上	第3期平均 492人/年	第3期の平均実績や地域のニーズ、今後の活動方針を踏まえて設定
	I	<ひびきのキャンパス> 学生プロジェクト数の第4期中期目標期間における合計が2件以上	新規取組のため 実績無し	今後のひびきのキャンパスの取組みから見込まれる実績を踏まえて設定

評価指標(地域貢献) I区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目
 II区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
26 SDGsへの貢献	II	SDGsに関連する学内向けセミナー等を毎年度開催	毎年開催	実施時期（毎年度実施）を新たに設定
	II	SDGs関連の市民・企業向けイベントを毎年度開催	毎年開催	実施時期（毎年度実施）を新たに設定
27 リカレント教育	I	柔軟な領域科目の開講等により、毎年度50人以上の受講生を確保	第3期平均 47人/年 (R2除く)	第3期の平均実績を踏まえ、定員（60人）の8割を超える履修生を確保することを目標として設定
29 シビックプライドの醸成	I	地域共生教育センターの学生プロジェクトに参加した学生に対して行うアンケート調査において、「北九州の課題解決に貢献したい」と回答する学生の割合が毎年度90%以上	第3期中のR2～R4 93.4%～95.8%	第3期の実績を踏まえて、90%以上の高水準の維持を目指して設定
30 大学間連携の推進	I	大学コンソーシアム関門における本学の共同授業の開講数が毎年度2科目以上	第3期最終年度 (R4) 2科目	第3期の最終年度の実績と、単位互換校との今後の連携内容を踏まえて設定
	I	<国際環境工学研究科> 北九州学術研究都市内の大学間連携における単位互換科目数が毎年度29科目以上	第3期最終年度 (R4) 29科目	
	I	<国際環境工学部> 北九州工業高等専門学校との連携における単位互換科目数が毎年度2科目以上	第3期最終年度 (R4) 2科目	

評価指標(管理運営等)

I 区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目

II 区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
31 ガバナンス体制の確立	I	役員会及び経営審議会への監事の出席率が100%	第3期最終年度(R4) 100%	強固なガバナンス体制の確立・維持を目指し、業務の監視機能を維持するため設定
	I	学長と学部等との意見交換の実施件数が毎年度8件以上	第3期平均8件/年	第3期の平均実績以上を目指して設定
32 大学広報の充実	I	大学ウェブサイトのニュース(NEWS)件数の第4期中期目標期間における平均が400件/年以上	第3期最終年度(R4) 360件/年	積極的な大学PRの観点から、第3期の実績から更なる増加を目指して設定
33 事務職員の能力向上	I	事務職員の能力向上のための各種研修の実施件数が毎年度3件以上	第3期最終年度(R4) 3件/年	①新採研修、②OJT、③公立大学協会の派遣研修の実施を想定して設定
34 施設・設備の整備	II	施設・設備の定期点検を毎年度実施	定期点検を毎年度実施	実施時期(毎年度実施)を新たに設定
35 省エネキャンパスの実現	I	第4期中期目標期間の最終年度における紙の購入総重量が36.2トン未満	コロナ禍前(R元) 36.2トン	コロナ禍前のR元年度の実績と比較して、紙の購入量の削減を目指して設定
	I	第4期中期目標期間の最終年度における飲料系ごみのペットボトル回収量が3.5トン未満	コロナ禍前(R元) 3.5トン	コロナ禍前のR元年度の実績と比較して、ペットボトル回収量の削減を目指して設定(使用量の把握は困難であるため、回収量を使用量とみなすもの)

評価指標(管理運営等) I区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目
 II区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
36 DX等の推進 追記を検討	II	既設のネットワークスイッチの高速タイプへの切り替えを第4期中期目標期間の最終年度までにすべて実施	第3期最終年度 (R4) 北方 62/62台 (全切替完了) ひびきの 23/109台	実施時期 (第4期の最終年度までに) を新たに設定
	II	新財務会計システム及び勤怠管理システムを令和7(2025)年度を目途に導入	各システムの導入に向けて検討中	業務の効率化に向けた新財務会計システム及び勤怠管理システムの導入時期を新たに設定
37 情報セキュリティ体制の確保	I	情報セキュリティの確保に係る研修の実施件数が毎年度2件以上	直近実績 (R3) 1件	今後の研修計画を踏まえて設定
40 PDCAサイクルによる内部質保証の推進	II	内部質保証に係る自己点検・評価を毎年度行い、改善を実施	自己点検・評価を毎年度実施	実施時期 (毎年度実施) を新たに設定
41 積極的な情報の公表	I	大学ウェブサイトのニュース (NEWS) 件数の第4期中期目標期間における平均が400件/年以上 (再掲)	第3期最終年度 (R4) 360件/年	積極的な大学PRの観点から、第3期の実績から更なる増加を目指して設定
42 危機管理体制の強化	II	教職員向けに危機発生に備えた研修を毎年度実施	第3期最終年度 (R4) 実施(1回)	実施時期 (毎年度実施) を新たに設定
	II	学生向けに学生生活安全講習会を毎年度実施	第3期最終年度 (R4) 実施(1回)	実施時期 (毎年度実施) を新たに設定

評価指標(管理運営等) I区分：定量的な評価指標を新たに設定した項目
 II区分：定量的な評価指標の設定が難しいため、実施時期を新たに設定した項目

実施項目	区分	評価指標	現状	評価指標設定の考え方
43 研究不正防止の取組	I	研究不正等による教職員の不祥事発生件数が第4期中期目標期間において0件	第3期最終年度(R4) 1件	不祥事案の発生防止に最大限努力することを踏まえて設定
44 SDの充実	I	SD研修の実施件数が毎年度4件以上	第3期最終年度(R4) 5件	①情報セキュリティ、②研究不正防止、③法令遵守、④人権・ハラスメントの4分野の実施を想定して設定
45 教員の多様性の向上	I	40歳未満の教員比率が第4期中期目標期間の最終年度までに15%以上	第3期平均15.9%	第3期の平均実績、教員の年齢と性別の構成状況を踏まえて設定
	I	女性教員比率が第4期中期目標期間の最終年度までに20%以上	第3期平均19.2%	